

人権教育研修会に参加し、「人権とは何か」改めて考えることができました。

日々ニュースを見てみると「いじめ」「差別」「自殺」などの言葉を多く耳にします。そのたびに心が痛くなり、悲しい気持ちになります。いじめや差別はどうしたらなくなるだろうか。どうして人を傷つけるようなことをするのか。いじめは絶対に許されないことです。心は傷つき、生きていく力さえ奪ってしまいます。もちろん、被害者が一番悲しい思いをしますが、加害者の方でも何か心に傷を負ってしまうのではないのでしょうか。人の心を傷つけることで気持ちが発散されるとしたら、それは



## 私ができること

みずべ保育園 高山 奈美

恐ろしく悲しいことです。私は、家族からたくさん愛情を受け、育てられたと思えます。どんなことでも自分を受け入れてくれ、家庭には自分の居場所がしっかりとあります。何かあるたびに、家族の顔が浮かび「私は一人じゃない」と思い、さまざまなこと乗り越えて来ました。私を受け入れてくれる家族、友人がいることを誇りに思います。

学生の頃、私は児童養護施設に実習に行きました。当初は、施設にいる子どもたちを「特別な子」「かわいそうな子」という偏見の目で、子どもたちと接して行きました。でもそれは間違いでした。実習中は、暴言を言われたり、無視されたり、辛いこともたくさんありました。けれどもめげずに、私は子どもたち

ちと向き合おうと心に決めました。それは、子どもたちの笑顔が見たい、目の前にいる子の力になりたいと思ったからです。施設にいる子どもだけではなく、心に傷を負った子どもたちが、世の中には多くいると思います。子どもたちを愛し、心に負った傷をなおせるのは、人間、そして大人だと思います。

人権教育研修会には、いろいろな立場の方が多く参加されていました。分散会では、さまざまな方の貴重な話を聞き、多くのことを学ばせていただきました。いろいろな考え方がありますが、どの考えも素晴らしい、正解はないと思いました。一人一人顔が違うように、考え方も違うのは当たり前です。けれども、国籍や外見、考え方の違う人を否定したり無視したり…。知らぬ間に人を傷つけてしまう経験は誰にでもありうることで、相手の立場に立ち、相手の良さを認め理解する。簡単なことのようにですが、日々忘れがちです。心に余裕を持ち相手のことを考えられる、そんな人にな



散歩から帰って来たみずべ組の子どもたちと

りたいです。私は社会人四年目、保育士として働いています。子どもたちは一人一人個性があり、キラキラと輝いているかけがえのない存在です。そんな子どもたちを囲まれ、幸せな日々を送っています。

私ができること。それは、子どもたちを愛することです。子どもたちには自分や相手を大切にできる、そんな人になってほしいです。私も、周りにいる全ての人を大切に、助け合って生きていきたいと思います。

## 雨のち晴れ

下諏訪社協 清道 章

心が一度死んだこと…。これは私の人生にとって、とても大きな傷である反面、大きな糧になっていきます。心が死んだ理由は、以前の職場で経験したいじめです。自分の器量不足から招いたとの自覚があったので、不器用なりに現状打破しようと努力したのですが、暴言や暴力がエスカレートしどうやって死のうかと考える日々になりました。結果、鬱病と診断され、自殺願望を払拭するのに長い時間を要しました。が、その間に、「人の心を感じとる力」と「死を覚悟すると大概のプレッシャーはどうでもよくなる」という心の余裕を養うことができた気がします。

このことは福祉の現場で働く私にとって、かけがえのないものになっていきます。むろん家族や友人の支え無くしては得ることができなかったものですが、

今回の研修会でも様々な方の意見を聞くことができ参考になりました。活かせるように生きていけます。



自分の経験や意見を気楽に出し合う

## こういう機会でもない限り

下諏訪社協 横澤 奈津子

今回のような機会でもない限り、顔を合わせることもない職種同士で話し合うことができません。有意義な時間となりました。

私の班では、学校関係者より子どもたちへのどのような人権教育をしているか、聞くことがで

きました。様々な意見が出るなかで、学校という閉鎖された空間で子どもたちの教育を完結させるのではなく、外の活動を取り入れることによって、社会性を身に付けているという話がありました。親しい友人でない人たちと話すことが、人権感覚を育てるにはとてもよいと思いました。仕事上多くの人と関わるので、そのなかで私も、今まで以上に成長できたと思います。

## 自分も無意識に…

下諏訪社協 伊藤 綾香

下諏訪町人権教育研修会に参加し、普段関わることの少ない職種の方々の話を聴く良い機会となりました。

ビデオ視聴やアンケート結果から、多くの人が日々の生活の中で、いじめや差別を受けていると感じていて、大半の人がそのことを黙って我慢している、とのことでした。常に相手の立

場になって考えることができたから、このような思いをする人は減るはずですが、なかなか自分のこと以外が見えておらず、知らないうちに人を傷つけている場合も多いという話から、自分も無意識に加害者になっているかもしれない、と考えさせられました。

分散会で、様々な職種の方の意見を聴き、挨拶のできる地域づくりが大切である、という話が心に残りました。多くの人と関わる仕事であるため、今回の研修を仕事や日々の生活の中で活かしていけたらと思います。



普段関わることのない人との話し合いは新鮮